

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和4年度
意見交換会(第1回)**

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2022年8月8日

● 目次

1. 本日の論点
2. 過年度実施状況
3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性
4. テーマ案
5. 取り組み内容案
6. 今後のスケジュール
7. ディスカッション

● 1. 本日の論点

今年度の意見交換会・実践の場のテーマ案及び取り組み内容、参画団体、今後のスケジュールについて議論させていただきます。

論点 1	過年度事業の議論を踏まえ、福島県として実践していく内容に関するテーマ案を検討し決定する。
論点 2	取り組み内容に係る参画団体について、検討及び推薦者、調整方法を決定する。
論点 3	論点 1、2 を踏まえ、今後のスケジュールを決定する。

● 2. 過年度実施状況：福島県

過年度までの意見交換会・実践の場を通じ、課題に対する解決策導出や情報発信の成果を創出。ただし、その後の実現や取組の継続には至っていなかったことから、本年度の意見交換会・実践の場では、復興・地域活性化に向けた実行・継続の仕組みを意識した議論・取組とすることを検討します。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	年度ごとの成果
テーマ	人材×日本酒（日本酒を核にしたネットワークづくりの検討）	食・観光・伝統工芸など、地場産業の担い手確保	福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）	東日本大震災から10年目にあたって	学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う	年度ごとに被災地の状況を踏まえた課題設定と解決に向けた議論・取組でアイデア導出・情報発信
実践の場	「福島県産品・伝統工芸品のPR（福島市）（福島県観光物産館）」 「アイデアソンの開催」（東京都千代田区） 福島：日本酒と酒器の組み合わせ商品の展示・販売 東京：Made in Fukushima商品をつくることのアアイデアソン	「ふくしまキャリア探求ゼミ～ふくしま新しい働き方・チャレンジの仕方について知ろう～」（福島市） 福島県にU/Iターンをして新たな生活・仕事のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、理解を深めてもらうためのワークショップ	「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」（福島市） 福島県内在住の高校生・大学生に対し、県内には魅力的な仕事・働き方が多くあることを知ってもらうために、県内で活躍しているゲストと対話し、学生自身が将来を考えるワークショップ	「ふくしまプラクティス2020 — 実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦 —」（双葉郡楢葉町） 挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的としたイベント	『『大学生発 福島キャリア新発見』読む会』（オンライン） 地域の中で魅力のある企業の若手社員を対象とした取材記事「大学生発 福島キャリア新発見」の創刊を目指して活動。 次年度以降の福島県の企業の魅力を発信する活動の拡大と、取材を行った学生の皆様の成長を目的に、実践の場をオンラインで開催	課題
						SDGsや人口減少等を意識したテーマ設定としていくことや、関係者のネットワークやITを活用しながら広域・多業種の主体の参画

● 2. 過年度実施状況（実践の場）：福島県

■ 令和元年度：令和元年12月8日「ふくしまキャリア探求ゼミ ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」

「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）」をテーマに、「ふくしまキャリア探求ゼミ ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」を企画・実施。

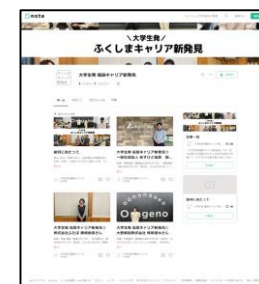
■ 令和2年度：令和2年11月20日（金）「ふくしまプラクティス2020 — 実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦 —」

「震災からの9年間を振り返り、復興・創生期間後を展望する取組」をテーマに議論を重ね、福島県内で復興活動を実践していた方々を集め、プレゼンおよび【生業の再生・コミュニティ形成・地域づくり】の3分野での意見交換を企画し、令和2年11月20日（金）に楡葉町にて「ふくしまプラクティス2020 — 実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦 —」を開催。

■ 令和3年度：令和4年1月29日（土）『『大学生発 福島キャリア新発見』読む会』

福島県を拠点とする協議会の副代表団体等による意見交換会において、学生の地元就職が進む枠組み作りを目指し、福島県の復興を担う人材育成に尽力している一般社団法人 あすびと福島 代表理事 半谷栄寿氏とともに、学生主体の事務局による、地域の中で魅力のある企業の若手社員を対象とした取材記事「大学生発 福島キャリア新発見」の創刊を目指して活動した。

「大学生発 福島キャリア新発見」の創刊にあたり、次年度以降の福島県の企業の魅力を発信する活動の拡大と、取材を行った学生の皆様の成長を目的に、『『大学生発 福島キャリア新発見』読む会』をオンラインで開催。『『大学生発 福島キャリア新発見』読む会』では、学生3名が作成した2つの取材記事に関して、協議会の関係者が読者目線でのレビューやアドバイスを行い、次年度以降における方針を発表。



● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

令和3年度意見交換会・実践の場の整理

そもそも 問題意識・ ねらい	✓単発のイベントで終わらず、地域課題解決の 取組を定着化 させたい ✓活動の支援を通じて ノウハウを抽出し、他地域にも展開 したい ✓福島産業振興に向けた 担い手確保
テーマ	<複数年で取り組むテーマ> 学生の地元就職が進む枠組み作り <単年度> 学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う
令和3年度末の 到達目標	•活動基盤の組成、取材・発信用の記事の作成、学生間での発信の実現
令和3年度の 取組結果	•あすびと福島にて「 大学生発 福島キャリア新発見 」の取組がスタート •令和4年度以降の 活動継続が確定 •一定のノウハウを抽出できた。ただし、適用範囲は限定的

● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

◎ 令和3年度第3回意見交換会における令和4年度テーマに関する意見

令和4年度のテーマについて第3回意見交換会で議論した結果、以下のような意見が挙げられた

- ・ 協議会として独自の取組となるようなテーマ設定をする必要があるのではないか
- ・ 取組テーマの設定については複数年度で取り組む観点から、R3年度を取組を深掘りする方向ではどうか
- ・ R3年度を取組を継続する方向性とするのであれば、学生や事業者に対し参画するメリットを提示するべきではないか
- ・ 実践の場については、情報発信のよい機会であるので、オンライン会議も活用しながらオープンなイベントとすべきではないか
- ・ 地域の若手の流出を解決するような取組となればよいのではないか
- ・ 持続可能な地域活動としてSDGsの観点から学生に取り組んでいただけるテーマであれば、学生の意識も高められ、通常の企業紹介ではなく学びの観点も含めた取組みになるのではないか

◎ 他県の意見交換会・協議の場も合わせたR3年度の総括的な振り返り

また、R3年度の意見交換会・協議の場を総括的に振り返ると、今年度は以下の視点が求められると考えられる。

- ・ 今年度の意見交換会での議論を通じ、「よりインパクトある課題設定・取組としていくこと」が求められ、その実現のためにはより多様な関係者が参画するよう調整・交渉を進める必要があるのではないか。
- ・ 活動の主体となる企業・団体の拡大に伴い、その活動に対するアイデア・知識を有する第三者の多様性の拡大も必要となることから、関与する第三者の特性も踏まえ、関与する場・方法を柔軟に設定する必要があるのではないか。
- ・ 副代表団体・事務局は、協議会を魅力あるプラットフォームとして継続的に機能させるため、インパクトある課題設定、幅広い関係者との調整・交渉を牽引していく必要があるのではないか。そのための高い視座を持ち、計画的に年度の事業を推進していくことが求められるのではないか。

● 3. 令和4年度意見交換会・実践の場の方向性

● 令和4年度意見交換会・実践の場の方針（案）

令和4年度の意見交換会・実践の場の方針を下記の通り整理してはどうか。

震災発災から11年

東北地域の新たな課題

- 2019年に目標を1年前倒して外国人宿泊者数150万人泊を達成
- 2021年に三陸鉄道リアス線、復興道路が全線開通
- 復興から振興へ機運の高まり
- 振興に向けてインフラ整備が進んだものの、事業継承等の担い手が不足している

翌年に活動10年目を迎える

協議会の役割

- 設立当初は会員同士の情報共有、ノウハウ共有として役割を果たした
- 近年の会員の活動率は10%程度と推測する
- ノウハウの共有のみならず、実利につながることを求めているのではないか
- 実利につながる役割を目指す

コロナ禍による

社会環境の変化

- コロナ禍により人々の交流は2年間制限された
- 移動することの意義が向上
- 物見雄山的な移動（観光）から、意味ある移動へ
- 人が本来持ち得ている知的欲求が増加し、移動することに意味を求めようになりつつある

● 4. テーマ案

意見交換会の方針及びテーマ

- 3県共通した意見交換会全体の方針について、「持続可能な地域づくり」に置いてはどうか
- また、3県共通した意見交換会全体のテーマについて、震災発災から11年が経過した中での、2023年のG7を見据えた「持続可能な地域づくりに向けた交流拡大」に置いてはどうか
- その上で過年度からの議論を鑑み福島県では、若者の視点を重視し、テーマを下記の通り設定してはどうか

✓ 福島県：「未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり」

● 5. 取り組み内容案

「未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり」

● テーマ設定の背景

福島県ではこれまで主に学生による話し合いと取り組みを推進してきた経緯がある。この考え方は、持続可能な地域づくりの観点から有効であった。一方、広く取り組みを展開する、参画者を募るといった観点では課題が残るものであった。よって、今年度の意見交換会・協議の場では、これまでの経緯を踏まえつつ、わかりやすいテーマ設定により、県内外の若者が取組に参画しやすい環境をつくり、共に「持続可能な地域づくり」を考える場を作っていくこととする。

● テーマ設定の目的

県内外の若者が参画しやすく、また、具体的な提案を行いやすい環境として、議論を行う場を「Jヴィレッジ」に置き、この場所（＝Jヴィレッジ、福島県）から何ができるか、海外も含む地域外の若者たちと共に「持続可能な地域づくり」を考え、具体的な取り組みにつなげていくことを目指す。

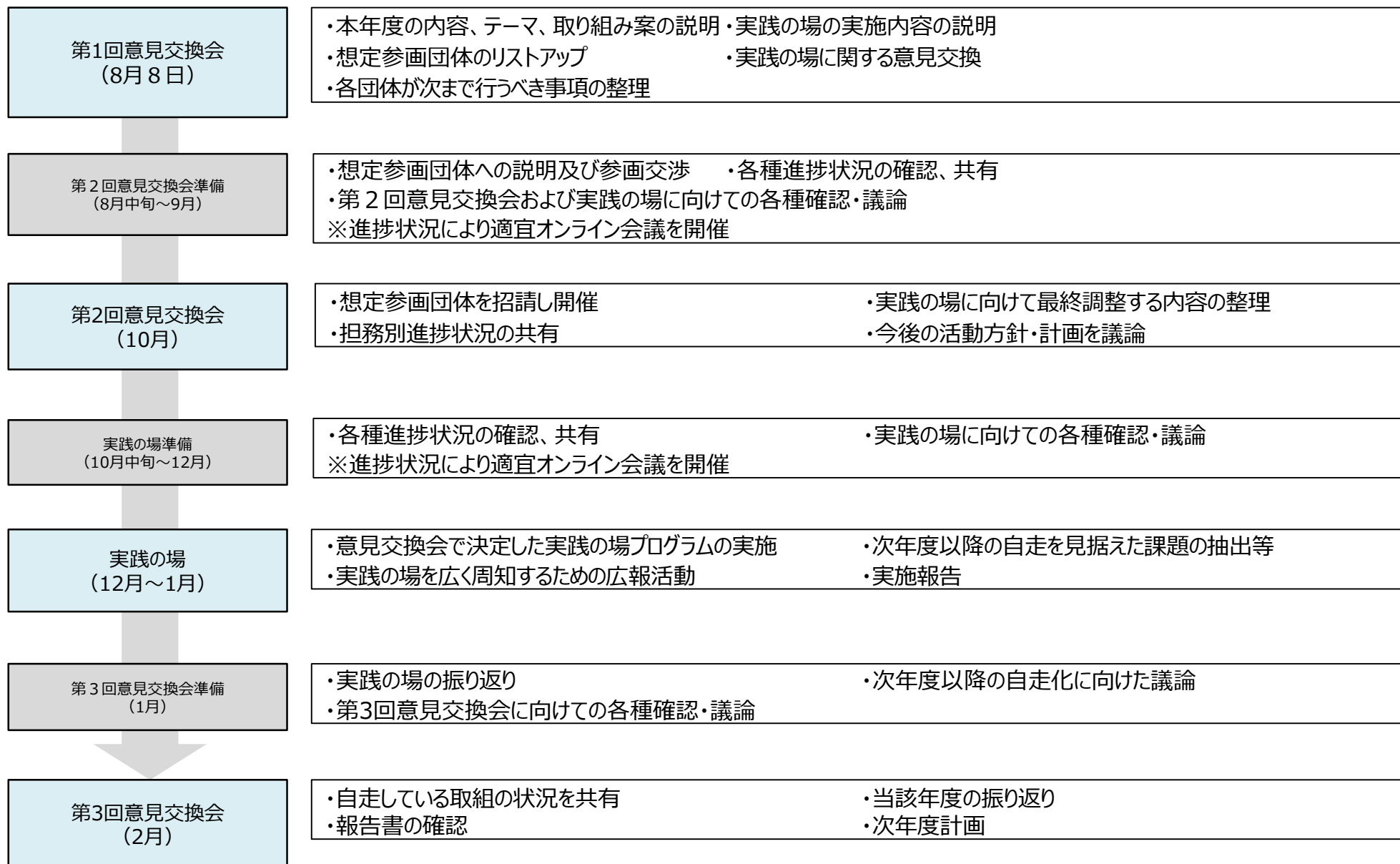
※次頁以降「各団体」の定義

- ・主団体：実践の場で取り組む内容を主体的に担う団体
- ・副代表団体：意見交換会の場において、実践の場に向けた取組案に対する助言を行う団体
- ・参画団体：実践の場で取り組む内容において、主団体と連携して取り組みを推進する団体

● 5. 取り組み内容案

項目	内容
取り組みテーマ	「未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり」
主団体	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社Jヴィレッジ
副代表団体	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社東邦銀行 福島県庁 国立大学法人福島大学 一般社団法人ふくしま連携復興センター
想定参画団体	※第1回目意見交換会にて検討
意見交換会内容案	<ul style="list-style-type: none"> ●短期視点（案） <ul style="list-style-type: none"> 福島復興のシンボルとして生まれ変わったJヴィレッジから、世界に向けてこれからの若者の想いを発信していく「場」を作る 福島県の若者による「持続可能な地域づくり」を語る場づくり 震災の経験も踏まえ、自分たちが学びたいこと・議論したいことをテーマとして設定 若者の募集方法、募集要項等に関する議論 ↓ 令和4年度取り組み（案） <ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な地域づくり」をベースに、令和4年度の実践の場で若者が議論するテーマを設定 開催概要、規模、情報発信方法等の検討 ●中長期視点（案） <ul style="list-style-type: none"> 国内外の若者による「エネルギー」「平和」「未来」など、高い視座による議論の場を福島に作る ↓ 令和4年度取り組み（案） <ul style="list-style-type: none"> 中長期視点による取組は、「未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり」の場づくりに関する計画案策定
実践の場	<ul style="list-style-type: none"> 若者による「未来を考えるサミット（仮称）」の開催 対外的な発信を前提とした多言語発信

● 6. 今後のスケジュール



● 7. ディスカッション

論点 1

過年度事業の議論を踏まえ、福島県として実践していく内容に関するテーマ案を検討し決定する。

**ディスカッションテーマ①
取組テーマ案の確認**

論点 2

取り組み内容に係る参画団体について、検討及び推薦者、調整方法を決定する。

**ディスカッションテーマ②
参画団体の検討**

論点 3

論点 1、2 を踏まえ、今後のスケジュールを決定する。

**ディスカッションテーマ③
今後のスケジュール
の検討**